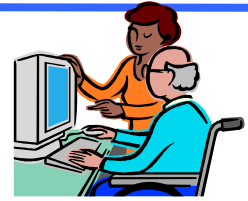
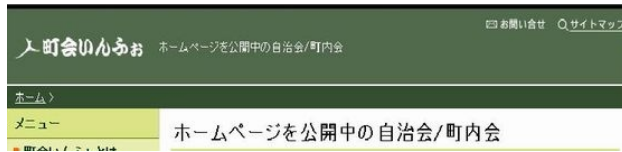




ビバシニア講座 自治会活動活性化の有力手段として 自治会ホームページ開設のすすめ



自治会ホームページをご存知ですか？

皆さんは、自分の居住区の自治会が運営するホームページ（以下HP）を見たことがありますか？「もちろん！」と答える人も多いと思いますが、それ以上に「知らない」と答える人のほうが多いと思います。今のところ、HPを開設している自治会が少ないのですから当然です。

「自治会」に対する地域住民の意識は、個々に受け止め方の違いが目立ちます。要不要で判断する人もいれば、メリットのありなしで判断する人もいます。地域に根付ききれない自治会の実態が垣間見られるのは、やはり寂しいものです。

HP開設の機運

地域（地元）への愛着心に乏しく、近隣関係の希薄化が言われる今日、地域の住民同士を結びつけるツールのひとつとして、ネット社会における自治会HPの果たす役割は大きいと思います。

このところ、行政が自治会HPの立上げを支援する動きがあります。たとえば、東京都板橋区では、「町会・自治会の活動などを紹介し、町会等への加入促進や地域のコミュニティ意識の啓発等を目的とするホームページの開設又は充実のための人材の育成等に関する事業を対象」と定め支援しています。

助成金額は必ずしも十分とは言えないかもしれませんが、行政が自治会活動をこのような形で支援する姿勢を示すこと自体、まさに時宜に合ったあり方で高く評価できます。

かつての「向う三軒両隣」の世界を、HPを介して実現できるのではと考えます。HPを立上げ企画・運営していくには、ネット社会に慣れ親しんだ中堅・若手自治会員の協力が欠かせません。

中堅・若手の斬新な感覚で、自治会活動を上手にPRしていけば、とかく自治会離れが懸念される同世代の入会率低下に、歯止めをかける手助けに十分なるのではないのでしょうか。

HPの有効活用

現在、すでに開設・運営している市区町村のHPを見ると、それぞれに特徴のあるページ作りで、アクセス回数も10万回に近いところもあり、住民の関心の高さが伺えます。

情報伝達手段として、今も中心的な方法となっている「回覧板」では、これだけの閲覧効果を得るのは難しいと思います。インターネットを使い慣れた住民には、HPの存在を周知徹底することで所期の目的を達成することが可能です。



パソコンを使わない人たちには、プリントアウトしたHPの情報を回覧・配布するなど、有効活用する方法があります。おしゃれでビジュアル、自治会のさまざまな情報が満載されたページは、人の目を引きつけることでしょう。

問題は担い手

さて、HPを維持管理するにはそれなりの負担がかかります。情報はつねにメンテナンスが欠かせません。タイムリーな情報提供がなければ、存在意義が失われます。

担い手として、頼りにしたいのは中堅・若手です。パソコンの扱いに慣れている人が多いだけでなく、同世代の住民に訴える感性がいちばん求められるからで、結果として自治会入会率の向上にも貢献できると考えます。

中堅・若手に期待する一方、開設にいたる音頭とりは自治会長をはじめ自治会役員が務めなければなりません。自治会あげてIT化に取り組む姿勢が望まれます。

百聞は一見にしかず、インターネットの「町会いんふお」で全国の自治会ホームページにアクセスできますのでご覧ください。（N）